

令和7年度学力向上指導改善プラン

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 自律 自ら考え、判断し行動する 尊重 違いを理解し、他者を尊重する 創造 豊かな発想を持ち、創意工夫する |
|--------|--|

| | |
|-------------|---|
| 目指す子どもの姿 | (1)見通しをもって、計画的に粘り強く行動する生徒 (2)他者の立場で物事を考える生徒 (3)創意工夫し、課題を解決する生徒 (4)自分を磨き、自分の良さを発揮しようとする生徒 |
| 変容を目指す資質・能力 | a 知識・技能 b 思考力・判断力・表現力等 c 学び続ける姿勢 d 他者を思いやる人権意識 e 課題解決能力 f コミュニケーション能力 |

三田市長 古井善喜
研究主体【校長、教頭、研修担当、各教科代表、教育課程担当、道徳教育担当】

| 前年度 | | 継続性 | 4月(※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正) | | 2~3月 年度末評価 | | |
|--|--|-----|--|--|---|---|--|
| 学力向上に向けた重点的な目標 | 年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等) | | 学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力) | 成果となる目標 (指標となる数値等) | 具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等) | (今年度の成果と来年度に向けた課題等) | 評価 |
| ○わかるよろこびと達成感を実感できる学習指導の工夫と授業改善により、基礎基本の定着と学びに向かう力の育成に努める | ○学校評価アンケートの「授業はわかりやすい」と回答した生徒が89.2%。前年度より2.9ポイント上昇。わかる授業に取り組んでいる。 ◆全国学力・学習状況調査の「1、2年生の時の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、楽しみながら学習を進めることができる」と「あまりそう思わない」「そう思わない」が27.2%で全国より10.4ポイント高い。 | → | ○わかるよろこびと達成感を実感できる学習指導の工夫と授業改善(a、b、e) | ○各教科の学びを通して自分の考えを整理し、適切に表現する力の育成。 ○学校評価アンケートの「学習指導」の項目について、生徒の肯定的評価が90%以上及び保護者の評価が75%以上。 | ○互見授業を行うと共に、初任の志を基盤とした学び続ける姿勢を継続することで、校内全体で授業改善に取り組んでいく。 ○振り返りができる機会を充実させ、常に丁寧な反復学習を行うことで、基本基礎の定着を図る。 ○スモールステップでの取り組みを基本とし、少人数のグループ学習を活用することで、対話や表現活動の充実を図り、学び合い、高めあう雰囲気づくりを行う。 | ○全教職員で互見授業を実施し、授業改善を図ることで、授業力を高めることができた。 ◆学校評価アンケートの「学習指導」の項目において、保護者の肯定的評価は目標に達したものの、生徒はわずかに至らなかった。わかるよろこびを実感できる学習指導の工夫を行うとともに、放課後の時間を利用するなど、生徒が質問や相談をしやすい学習環境を整える。 | B |
| ○主体的に学ぶ意欲を育てる学習相談の充実 | ○兵庫型学習システムを英語、数学で導入し、少人数で個に応じたきめ細かな指導を行えた。 ◆学校評価アンケートでは「家庭学習に取り組んでいる」と回答した生徒が62.0%(前年度より8.6ポイント下降)、保護者57.5%(前年度より7.5ポイント上昇)、教職員48.4%(前年度より8.4ポイント上昇)。 | | → | ○主体的に学ぶ意欲を育てる学習相談の充実(c、e) | ○個に応じた適切な指導と、協働的な学びの充実 ○学校評価アンケートで「家庭学習を行う習慣が身につけていると思う」と回答する生徒及び保護者が70%以上。 | ○「がんばり学びタイム」や「兵庫型学習システム」を活用して、少人数のきめ細かな指導や個々のつまづきに応じた指導の充実を図る。 ○家庭学習が習慣化するように、ICT機器の活用や、課題提示の工夫を行う。 | ○学校評価アンケートの「学校はタブレットなどICTを活用した授業に取り組んでいるか」の項目において、生徒の肯定的評価は97%、保護者は前年度から6.1%増加した。 ◆学校評価アンケートの「家庭学習を行う習慣が身につけていると思う」という項目において、保護者の肯定的評価が前年度から6.2%減少した。また、生徒の肯定的評価についても目標の達成に至らなかった。家庭学習の習慣化のため、課題への取り組み方の指導等の充実を図る。 |
| ○教育活動の公開や学校ホームページの更新など積極的な情報発信を行い、信頼される開かれた学校づくりを推進する ○生徒が地域で活動する機会の充実や地域の教育力を生かした取り組みにより、家庭・地域との連携と協働の学校づくりを推進する | ○学校評価アンケートでの「学校は家庭への連絡を丁寧にやっている」と回答した保護者が90.6%、「学校はお便りやホームページ等によって情報を適切に伝えている」と回答した保護者が93.2%。 ◆学校評価アンケートで「地域の行事に積極的に参加している」と回答した生徒が48.5%で前年度と同程度。「福祉体験やボランティア活動に積極的に参加している」と回答した保護者が37.9%で前年度より9.4ポイント下回っている。 | → | ○キャリア教育の充実、進路情報の提供、社会参画する機会づくり(b、c、d) | ○全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目において、肯定的評価が全国平均より+3ポイント。 ○学校評価アンケートの「学校は生徒の将来や進路・職業などについて適切な指導を行っている」の項目において、肯定的評価が+3ポイント。 | ○「トライやる・ウィーク」や「わくわくオーケストラ教室」等の、本物に出会う体験や社会に触れる機会を充実させ、豊かな心や自ら考えて行動する力を育てる。 ○キャリア教育の意義とその学習内容について、情報発信を丁寧にやっていく。 ○3年生に配布している「進路通信」のHP掲載を継続し、1・2年生の保護者にも十分周知されるように広報する。 | ○1年生から職業調べや進路学習を行うとともに、トライやる・ウィーク等の体験活動を推進し、社会的・職業的自立につながる資質・能力の育成に努めた。 ◆学校評価アンケートの「学校は生徒の将来や進路・職業などについて適切な指導を行っている」の項目において、成果となる目標の達成に至らなかった。 ◆全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目において、成果となる目標の達成には至らなかったが、肯定的回答が96.8%で前年度と同様に高い。今後も、地域と連携しながら、社会における自分の役割や自分らしい生き方について考えさせる機会の充実を図る。 | B |
| ○自尊感情・自己肯定感を育成し、自他ともに命と人権を基盤にした「豊かな心」を育成する教育の推進 | ○全国学力・学習状況調査の、「自分にいいところがある」と回答した割合は、86.4%で前年度より9.6ポイント、全国より3.1ポイント高い。「人が困っている時は進んで助けている」と回答する割合が93.9%で、前年度より5.5ポイント、全国より3.8ポイント上昇。学校教育目標やめざす生徒像・学校像の実現に向けて取り組めた。 | | → | ○命と人権を基盤にした、「豊かな心」を育成する教育の推進(b、d、f) | ○個々の悩みや不安に対して早期に対応できるよう、各学期に教育相談を実施する。 ○全国学力・学習状況調査の「人が困っているときは、進んで助けていますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目において、肯定的回答が全国平均より+3ポイント。 | ○各種調査及びアンケート、教育相談等で生徒の実態把握を行い、SCやSSW等の専門の見地からの意見も参考に、個々の生徒理解と学習や生活にかかわる不安や悩みの解消に丁寧な対応ができるように努める。 ○道徳教育の充実を図り、人の痛みを感じられる感性と、鋭い人権感覚の育成に努める。 | ○教育相談を毎学期実施し、生徒の悩みや不安に対して早期に対応した。 ○全国・学力学習状況調査の「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目において、肯定的回答が96.2%で全国平均より5.3ポイント高い。 ○全国・学力学習状況調査の「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の項目において、成果となる目標の達成には至らなかったが、肯定的回答が前年度より5.6ポイント高い。 ◆安心して学校生活が送れるよう、個に応じた学びの充実を図り、生徒が相談しやすい環境づくりを推進する。 |
| ○キャリア教育の充実、進路情報の提供、社会参画する機会づくりにより、自尊感情を高め、自己実現を図る | ○学校評価アンケートの「学校は生徒の将来や進路・職業などについて適切な指導を行っている」と回答した保護者が81.2%。前年度より4.3ポイント上昇。 ◆学校評価アンケートの「夢や目標を持ち、将来に向かって努力している」と回答した生徒の割合が83.6%で前年度と同程度。また全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っている」と回答した本校3年生は63.3%で全国の66.3%より3ポイント低い。 | 新規 | ○自尊感情や自己肯定感を育成することを目指した授業改善(b、c、f) | ○全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の項目において、肯定的回答が全国平均以上。 | ○各教科の授業をはじめ、学級活動等の充実により、生徒一人ひとりが自己有用感を得られるような成功体験につながる機会を増やす。 ○責任感をもって積極的に取り組む姿勢を育てるために、生徒会活動、学級での係活動、各行事等において、一人一役を担う教育活動を継続し、自己肯定感・自己効力感を高める。 ○生徒が「できた」「わかった」と言える授業実践を目指し、研鑽を重ねる。 | ○ホームルームでの一日の振り返りや、班長会議の実施を通して、生徒の自己有用感を育む機会の充実を図った。 ○研究授業や互見授業の実施を通して、生徒が自己肯定感や達成感を得られる授業実践の研究を進めた。 ◆成果となる目標はどの項目も達成には至らなかったが、肯定的回答は全国と同程度で高い。授業での基礎学力の定着とともに、対話や表現活動の充実をさらに推進し、生徒の自尊感情の育成を図る。 | B |
| ○育ちと学びの連続性を重視した学校園所連携教育及び小中一貫教育の推進～小中学校9年間を見通した学習指導の充実～ | ○6年生への出前授業を実施し、円滑な小中接続に努めた。 ○学校評価アンケートの「学校生活が充実している」と回答した生徒が92.8%、保護者が93.8%。前年度より4.4ポイント～4.8ポイント上昇した。義務教育9年間を見通した効果的な指導を行うため、組織的に取り組んだ。また、校区学校園所連携の取組を推進し、12年間を見据えた「学びのすがた」と「育ちのすがた」を共有、連携を積極的に行った。 | | → | ○育ちと学びの連続性を重視した学校園所連携教育及び小中一貫教育の推進～小中学校9年間を見通した学習指導の充実～(c、e、f) | ○学校園所連携の体制を基盤に、小中一貫教育の推進体制や共同研究を推進する。 ○生徒の課題を把握し、学校種や発達段階の違いから生じる子どもたちの不安や負担を軽減し、小学校から中学校への円滑な接続を図る。 ○義務教育9年間を見据えた教育課程を研究し、小中一貫教育を推進する中で「人も自分も、学校もふるさと大切にできる子」を育てる。 ○学校評価アンケートの「学校生活は充実していますか」の項目において、肯定的評価が95%以上。 | ○中学校卒業時に身につかせたい力を校区小学校とも共有し、9年間計画で指導していく。 ○学習指導要領に基づく義務教育9年間を見通した学習指導を検討し、「確かな学力」の向上と定着をめざす。 ○6年生への出前授業や生徒会制作の動画によって、中学校の様子を紹介するなど、中1ギャップの解消に努める。 ○昨年度実施した校区内の保幼小中の教員を対象とした全体研修を継続し、「学びのすがた」と「育ちのすがた」を共有し連携を図る。 | ○校区学校園所合同研修会を実施するなど、円滑な保幼小中接続に努めた。 ○学力向上や特別支援教育等の分野ごとに校区学校園所連携の取り組みを推進し、義務教育9年間を見通した効果的な指導を行うため、組織的に取り組みを進めた。 ◆学校評価アンケートの「学校生活は充実している」の項目において、生徒の肯定的評価が94.7%で、成果となる目標の達成にはわずかに至らなかったものの、前年度と同様に高い。生徒の個に応じた課題の把握に努め、不安や負担を軽減する取り組みを推進する。 |

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果(0~4の5段階評価)の平均値
○「評価」は年間の取組について、4段階で評価
A・・・十分に達成 B・・・おおそ達成
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず